# がん看護学演習Ⅱ

［演習］　1年　後期　選択　30時間　2単位

《担当者名》〇熊谷 歌織 [kaori@hoku-iryo-u.ac.jp]
三津橋 梨絵 [mitsuhashi@hoku-iryo-u.ac.jp]
守田玲菜 [r-mori@hoku-iryo-u.ac.jp]
平 典子 [hiran@hoku-iryo-u.ac.jp]（非）

【概　要】
がんの診断からエンド・オブ・ライフ期まで，がんサバイバー・家族が体験する苦痛症状，苦悩を包括的に理解し緩和するために，症状マネジメントモデルなどの諸理論，エビデンスに基づく援助法および臨床判断過程について学ぶ。また，多職種によるチームアプローチ，その中での専門看護師の役割を探求する。

【学修目標】
1.ライフステージの観点から，がんサバイバーと家族の特徴および看護援助を説明できる。
2. The Integrated Approach to Symptom Management(IASM)を活用し，種々の症状に対する苦痛緩和のためのアセスメントおよび援助法を修得する。
3. End of life careの概念から，終末期におけるサバイバー・家族に対する看護援助を説明できる。
4. 家族に対するグリーフケアの内容および方法を説明できる。
5. ＣＮＳの調整役割の内容および方法を説明できる。

【学修内容】

| 回 | テーマ | 授業内容および学修課題 | 担当者 |
|---|---|---|---|
| 1<br>∫<br>2 | ライフステージによる特徴と看護援助 | １）AYA世代、および高齢のがんサバイバーにおける身体的，心理・社会的苦痛を整理し，援助のあり方を探求する。 | 熊谷<br>三津橋 |
| 3<br>∫<br>5 | 緩和ケアにおける症状マネジメント１ | １）The Integrated Approach to Symptom Management(IASM)の概要および特徴を整理する。<br>２）IASMの活用による苦痛緩和のためのアセスメントと援助法を学習する。<br>　呼吸器症状の発生機序と援助<br>　消化器症状の発生機序と援助<br>　精神・神経学的症状の発生機序と援助<br>３）オンコロジーエマージェンシーにおける対応 | 三津橋<br>熊谷<br>守田 |
| 6<br>∫<br>7 | 緩和ケアにおける症状マネジメント２ | １）リンパ浮腫の発生機序，アセスメントと援助法を学習する。<br>２）IASM枠組みを活用し効果的な看護援助を探求する。（Case-basedディスカッション）<br>　理学療法的介入，運動療法，スキンケアの適用<br>３）理学療法的技法，運動療法技法を修得する；演習 | 小山三枝子（特別講師）<br>熊谷<br>三津橋 |
| 8<br>∫<br>9 | 緩和ケアにおける疼痛マネジメント | １）がん性疼痛の機序，タイトレーション，オピオイドローテーションを含む治療法について最新の知見を学習する。<br>２）IASM枠組みを活用し効果的な看護援助を探求する。（Case-basedディスカッション） | 熊谷<br>三津橋<br>守田 |
| 10<br>∫<br>11 | 終末期におけるがんサバイバーと家族に対する看護援助 | １）　End of life careの概念から終末期におけるサバイバーと家族の体験を整理し，看護援助について探求する。<br>２）ACPの考え方，現状での課題を理解し，ACP推進のあり方を探求する。<br>３）家族に対するグリーフケアを学習する。 | 三津橋<br>熊谷 |
| 12<br>∫<br>13 | 多職種によるチームアプローチと調整役割 | １）Interprofesional Collaboration Modelに基づき，チームアプローチのコンピテンシーを整理する。<br>２）緩和ケアチームにおける活動を学習する。<br>（Case-basedディスカッション）<br>３）ＣＮＳの調整役割について学習する。<br>　役割葛藤が生じる状況と調整の原則<br>　ＣＮＳの調整役割（Case-basedディスカッショ | 平<br>熊谷<br>三津橋 |

| 回 | テーマ | 授業内容および学修課題 | 担当者 |
|---|---|---|---|
| | | ン） | |
| 14<br>～<br>15 | 事例による統合 | １）専門看護師の活動事例をもとに，専門看護師による高度実践について考察する。<br>２）専門看護師の俯瞰的視点と包括的アセスメントを探求する。（Case-basedディスカッション） | 石井奈奈（特別講師）<br>熊谷<br>三津橋 |

【授業実施形態】
面接授業と遠隔授業の併用
※授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】
課題レポート（50%），プレゼンテーション（25%）およびディスカッション（25%）から総合的に評価する.

【教科書】
随時提示する。

【参考書】
随時提示する。

【学修の準備】
関連資料および関連図書を熟読して臨む。

【学修方法】
各テーマの課題に対するプレゼンテーションとそれに対するディスカッションにより学習を深める。

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】
本科目の内容は、看護学における高度な専門性と研究能力を修得するという看護学専攻博士前期（修士）課程のディプロマ・ポリシーに適合している。